ＯＢ会だより

第57号

〈発　行〉
京都外国語大学
能楽部OB会広報部

今号の注目記事

◆能楽部ＯＢ会会長挨拶…1P　◆新ＯＢ会員紹介・外大能番組紹介　…2P
◆創部六十周年記念祝賀会を終えて（アンケート結果発表）…3P～7P
◆橋本忠樹先生のＹｏｕＴｕｂｅ紹介／会計局からのご報告／編集後記…8P

はじめに

広報部部長　唐木　啓子

皆様、お元気でいらっしゃいますか。例年よりも少し遅い発行になってしまいました。

新型コロナウイルスの流行によって様々な影響を受けている今年、ＯＢ会だよりを発行するかどうか広報部としても大変迷いました。

しかしながら、二月に創部六十周年記念祝賀会が無事開催できたことを報告したいという思い、そしてその際に書いていただいた出欠ハガキのアンケート結果が大変素晴らしく「こんな時だからこそ、ＯＢ会だよりを読んでいただき、少しでも明るい気持ちになっていただけたら」という思いから、島谷会長や先生方と相談の上発行することを決めました。

今号では、二月二十四日（月・祝）に京都ホテルオークラで行われた「京都外国語大学能楽部創部六十周年記念祝賀会」の報告とともに、出欠ハガキのアンケート「好きな能」「思い出深い能」の集計結果、そして新ＯＢ紹介、忠樹先生のＹｏｕＴｕｂｅチャンネルなどを紹介します。

コロナ禍の影響を受けて

ＯＢ会会長　島谷　直見

ＯＢ会の皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。今年は全世界が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大変厳しい生活を余儀なくされました。今もまだコロナウイルスの収束は叶っていません。

全国的に大学は、その影響を強く受けました。京都外国語大学でも入学式より春学期は、全授業がオンラインで行われました。よってクラブ活動は全面的に禁止となりました。

十月一日より秋学期が開始されましたが、一部の授業はウイルス感染防止対策を講じながら対面授業が開始されましたが、基本的にはリモート授業が続いています。よって、クラブ活動は、活動時間など活動内容の大幅な制約を受けながらですが活動が許可されるようになりました。ただ現実的には、土・日の二時間だけの活動許可で、やはり厳しい状況が続いています。

今年度の外大能は、当初十二月六日（土）、河村能舞台にて予定されていましたが、止む無く延期となりました。可能であれば、令和三年の二月に外大能を開催できれば…と、現役と先生方で思案されていますが、コロナの今後の状況・大学の状況・現役のお稽古の状況など今の段階では「予定しています」と皆さまにお伝えするしか出来ません。

ＯＢ会の皆さま、コロナ禍による様々な難しい状況をご理解下さいます様、心よりお願い申し上げます。

皆さまのご健康を祈りつつ、一日も早く新型コロナウイルス感染拡大の終息と、心平和で安寧な生活が戻ります事を願っています。

今後とも京都外国語大学能楽部そしてＯＢ会へのご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

新OB会員紹介



会員 No.167
大垣愛満

私は、能楽部に入って良かったと思っています。能楽部に入るまでは、名前だけは知っているという程度で全く知識はありませんでした。きっと能を観ること自体なかったと思います。

能楽部では、様々な経験をさせていただきました。外大能で、能楽「羽衣」を舞ったことは、これから先もずっと忘れることはないと思います。能の舞台に立つことは、きっと能楽部に入らなければ一生経験することはできないと思います。

活動は楽しいことだけではなく、辛いこともたくさんありましたが、この部活に入ったことで大きく成長できたのではないかと思います。

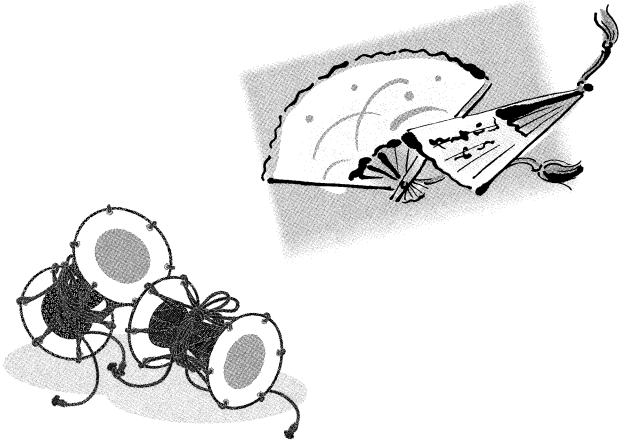
能楽部で経験したことは、私にとって一生の宝物です。たくさんご迷惑をおかけしましたが、支えてくださった先生方、先輩の方々、そして現役部員のみんなに心から感謝申し上げます。今年で創部六十周年ですが、そこからさらに発展していくことを心から願っています。



会員 No.168
藤原万由美

秋色もようよう濃くなって参りました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスにより様々なことが変化し、先が見えないなかで対応に追われる日々が続いておりますが、少しでも早くＯＢの先輩方や現役の方とまたお会い出来たらと心から思います。

四月から私は社会人として新たに一歩を踏み出しました。覚えなければならないことが多く、勉強の日々ですが、礼儀作法や目上の方とのコミュニケーションの取り方など能楽部で学んだことが自分のためになっていると深く実感しています。これからはＯＢとして自分が現役時代にＯＢの先輩方にして頂いた様に、取り組み頑張っていく所存です。まだまだ未熟ではございますが、今後も何卒宜しく御願い致します。



外大能の番組紹介

島谷会長の挨拶文にもありますとおり、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、現段階では令和三年二月に延期予定の外大能が開催できるかどうかははっきりしません。

しかしながら、予定している番組が現役から届いていますのでご紹介します。

能楽

「敦盛」　金光優衣

仕舞

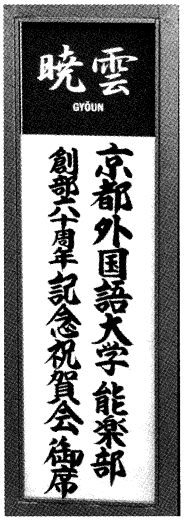
「弓八幡」　板谷海緒
「嵐山」　川田崚登
「経正クセ」　橋本大樹
「班女舞アト」　浜崎千紗代
「鞍馬天狗」　ベーカー太朗



京都外国語大学能楽部
創部六十周年記念祝賀会











京都外国語大学能楽部 創部六十周年記念祝賀会 式次第

令和二年二月二十四日（月祝）正午開始
京都ホテルオークラ〈暁雲の間〉
司会　橋本 沙抽里

一、開会
一、祝言「猩々」　橋本 礒道 先生　橋本 忠樹 先生　橋本 和樹 様
一、挨拶　能楽部ＯＢ会会長　島谷 直見
一、祝辞　京都外国語大学理事長 総長　森田 嘉一 先生
　能楽部名誉顧問　学生部部長　中嶋 大輔 先生（代読）
一、乾杯　能楽部講師　橋本 礒道 先生
一、祝宴　能楽部顧問　樋口 穣 先生
一、祝辞　京都外国語大学　校友会監査役　赤﨑 恒二郎 様
一、挨拶　橋本 光史 先生
一、花束贈呈　橋本 忠樹 先生
一、謝辞　能楽部部長　木町 莉子
一、祝言「高砂」　橋本 忠樹 先生
一、記念撮影
一、閉会


校友会監査役 赤﨑様ご挨拶


能楽部顧問 樋口先生ご挨拶


森田総長先生のご挨拶を中嶋大輔先生がご代読


橋本礒道先生ご挨拶




島谷OB会会長ご挨拶


橋本光史先生乾杯ご発声


メイン司会の橋本沙抽里さん

創部六十周年記念祝賀会を終えて

京都外国語大学能楽部が本年をもちまして、創部六十周年を迎えました。皆様おめでとうございます。創部されて以来、六十年間に亘って能楽部を見守りご指導くださった講師橋本礒道先生に心より御礼を申し上げます。

それでは、二月二十四日京都ホテルオークラにて開催されました創部六十周年記念祝賀会の様子を写真とともに、ご紹介したいと思います。

六十周年記念祝賀会では、能楽部名誉顧問として長年お世話になっている京都外国語大学森田嘉一理事長先生よりご挨拶を頂戴し、大学関係各位、能楽師の先生方のご臨席を賜りました。そして、全国から大勢のＯＢ会会員の皆様にも集まって頂きました。

オープニングは、橋本礒道先生、橋本忠樹先生、和樹君による「猩々」のご発声でした。会場に響き渡るお謡いに感動し、また和樹君の可愛らしさに皆が釘付けでした。

先生方によるご発声に続き、来賓の皆様よりご挨拶を賜り、橋本光史先生のご発声で乾杯をしました。

祝賀会のメイン司会は、橋本沙抽里さんにお願いしました。当日のみならず祝賀会の準備段階から関わって下さり、会場で流すＢＧＭなど様々な細かい部分にも気を配って下さいました。

ここからは、京都ホテルオークラのお料理を頂きながら、歓談が続きます。ほどよいタイミングで能楽部の歴史を集めたスライドショーが会場の大きなスクリーンに映し出されました。これは前回の祝賀会の際に作ったものに、十年分を加えたものです。この映像を見ながら、歓談は一層盛り上がりました。

その後は「テーブルインタビュー」のコーナーで、スライドに映っていた人々に当時の思い出を語って頂いたり、「サイコロトーク」でサイコロの目に応じた話題を、参加者の方々に語って頂きました。また事前に、出欠はがきで行っていた「好きな能楽、思い出に残っている能の曲」についての結果発表もありました。最後にベストドレッサー賞を選ぶコーナーがあり、能楽部も還暦ということで、赤色を素敵に着こなした参加者の方に賞品が贈られました。

新型コロナウイルスが日本にも上陸し、報道等でも取り上げられるようになったころで、開催も危ぶまれたのですが、当日は懐かしい人との再会もあり、楽しく和やかな会となりました。

♬歓談の中、サイコロトークとテーブルインタビューで盛り上がりました♬



ベストドレッサー賞受賞の皆さん











Part 1 創部六十周年記念祝賀会出欠ハガキアンケート結果発表

記念祝賀会の場でも発表がありましたが、それぞれを選んだ理由とともに改めてこの場で紹介させていただきます。

①好きな能

1位　羽衣、船弁慶

2位　海士

3位　熊野

羽衣

◇先輩が能で演じられた時、その方のお人柄とも重なり、明るく、美しく清々しかった印象が今も残っています。

◇三保の松原で薪能を観て、かがり火の薪の音や風とともに舞台があって自然との調和に感動しました。

船弁慶

◇前シテのしっとりさと後シテの勇ましさと子方のかわいさと！先輩方と後輩達の思い出がいっぱいつまっています。後半のお謡いの盛り上がりとワキの先生の数珠の音も好きです。

海士

◇玉之段のドラマチックな動きが好きです。能ってこんなに劇みたいなのか！と入部当時に感動しました。

熊野

◇お能を見て初めて泣きました。あまりに美しすぎてまた桜の情景が一瞬にして浮かびます。謡も泣いてしまいます。

続いて4位は　井筒、清経、天鼓、道成寺、松風、三輪、5位は石橋、隅田川、山姥でした。

井筒

◇しみじみと美しい曲だから。井筒の女性の想いが詰まっているところ。

清経

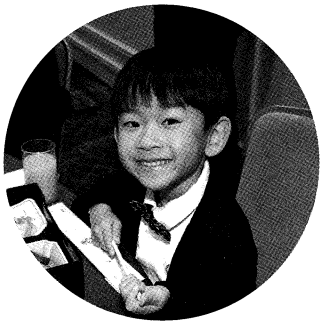
◇能楽部創立十周年記念第七回外大能で演じさせて頂いた。雅夫先生から「○○の清経ではなく、清経の○○にならないといけないよ」と教わりました。これは技術的な事だけでなく、物事への取り組み方、考え方など生活すべてに通じる教えであるとキモに命じています。

道成寺

◇シテと小鼓の気迫の空間。引き続く乱拍子、これぞ能のスペクタル。礒道先生と忠樹先生のシテを観ることができたのはラッキーでした。







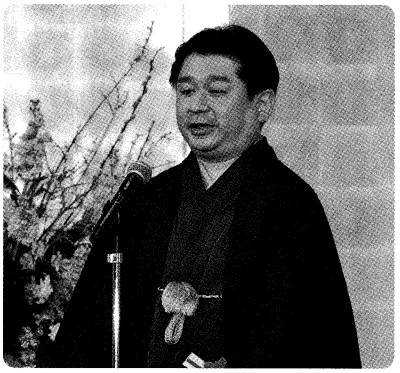






橋本礒道先生へ花束贈呈


能楽部木町部長挨拶


橋本忠樹先生ご挨拶



創部六十周年記念祝賀会記念品


創部六十周年記念祝賀会二次会 集合写真（京都ホテルオークラエディンバラの間にて）

Part 2 創部六十周年記念祝賀会出欠ハガキアンケート結果発表

②思い出深い能

1位　船弁慶
2位　羽衣
3位　井筒

船弁慶
◇四回生の外大能で自分がシテをつとめた曲だから。後シテの約15分という短い出演時間でも、全力を注ぎこむことができた感慨深いかけがえのない思い出の曲。
◇私にとって松任谷由実の歌「ノーサイド」能楽バージョンです。

羽衣
◇全身全霊を込めて舞った曲。「天に偽りなきものを」くじけそうになった時、思いだして元気をもらう。
◇外大能で舞った曲。クセの穏やかな春の景色は本番でしか味わえなかった。
◇新入生の時初めて部室を訪れた際、先輩が羽衣を舞ってみせてくださりました。とてもきれいだったのと、先輩方がとても親切にしてくださったことを思い出す曲です。

井筒
◇自分が前シテをつとめさせていただくことになり、動きの少なさに戸惑ったこともいい思い出です。

続いて、4位は安達原、海士、巴、吉野天人、5位は清経、小鍛冶、胡蝶、班女、融でした。

安達原
◇後シテをつとめさせて頂いたので。面から覗くワキ方の先生のお顔を今でも夢に見ます。

海士
◇地謡しながら初めて感情移入できた曲だから。あと初めて泣けた曲なので…

巴
◇様々な思い出がある。大学三回生の時に部を去ろうとした私に、先生方先輩方、後輩、そして同回生が沢山声を掛けてくださいました。たくさんの方に支えられて出させて頂いた前シテ。一生忘れることができない曲です。

小鍛冶
◇四回生でさせて頂いたお能であり、間違ってワキの先生が持つ刀を本当に叩いてしまった事がとても思い出深いです。

スペースの都合で一部の紹介になってしまいましたが、曲は違えど能楽部の思い出や心に響いたものをそれぞれお持ちなのだなとこのアンケートからも60年の歴史の重みを感じました。ご協力ありがとうございました。



創部六十周年記念祝賀会 集合写真

YouTube はじめました

お能に出てくるお話を通して
「へー、そんなことが、、、」「それはもう一度行って、見てみなければ!」などと、
京都の歴史や名所旧跡に思いを馳せていただける
「能楽師　橋本忠樹の京あるき」ご覧いただけますと幸いです。



2020年8月から配信開始
2021年4月頃終了予定

各月1回
【配信内容】
①ご挨拶（公開中）
②京都観世会館　前編（公開中）
③京都観世会館　後編（公開中）
④鍛冶神社、合槌稲荷
***5回目以降は検討中**
協力/京都市
交通マップ提供/京都市交通局
主催/街内（まちなか）アート研究会
チカソシキ

【出演】能楽観世流シテ方 橋本忠樹

観世流能楽師　橋本忠樹の京あるき
【掲載ウエブサイト】
街内（まちなか）能ライブ
http://machinakaart.wixsite.com/nohlive

＜関連ホームページのご案内＞

『観世流能楽師 橋本忠樹先生のHP』➡http://www.hashimoto-tadaki.jp/
能楽部講師 橋本忠樹先生のご活躍は勿論ですが、能楽に関する様々なお話が紹介されています。

京都外国語大学校友会　能楽部　検索
京都外国語大学校友会の能楽部紹介
http://www.kufs.ac.jp/koyukai/move/club/nougaku/
校友会のホームページで能楽部の活動報告が見られます。是非、アクセスしてみてください。

会計局より「ＯＢ会費について」

毎年「ＯＢ会費納入のお願い」の通知を送らせていただいていますが、新型コロナウイルスの影響を考慮して本年度の会費は集金致しません。

連絡が遅くなりご心配をおかけしましたが、この場でご報告させていただきます。

編集後記

振り返ってみると二月に行われた六十周年記念祝賀会に出席できたことは、本当に奇跡のようでした。京都から戻った翌日に私の住む地域で初の感染者が出て、そこから一気に自粛ムードへ…卒業を間近に控えた子供達は休校になり、時が止まってしまったかのような毎日を過ごしました。当たり前だったことができなくなり、先が全く読めない日々でしたが、アンケートのまとめ作業をしながら気がついたのです。やっぱり能楽部はすごい！ひとりひとりの四年間が重なり合って六十年を迎えたのだと。祝賀会の最後、「高砂」を練習なしで全員が一斉に謡うことができることに心から感動したことを思い出しました。

まだまだ状況が落ち着くには時間が掛かりそうですが、このＯＢ会だよりを読んでいただくことで少しでも皆様の気持ちが明るくなると良いなと思っています。お忙しい中、原稿を執筆してくださった皆様本当にありがとうございました。

《ＯＢ会だより第57号》
◎編集責任者　唐木啓子
☆編集委員／藤原敏起・土井智代・鴨川愛子・
栗山藍・塚田智恵・橋口莉奈
◎発行責任者　島谷直見